

地域の食と農を活かした ぐるっとオーベルジュの推進



奈良県農林部長 福谷健夫

地域の食と農を活かしたぐるっとオーベルジュの推進

奈良県南部・東部地域における公設民営のオーベルジュ整備に対して支援を行い、なら食と農の魅力創造国際大学校（N A F I C）と連携して、一体的に地域の活性化を図る。

期待される効果

- 県南部・東部地域の活性化
 - 交流人口の拡大（滞在周遊型観光の進展）
 - 農産物の活用促進
 - 国内外からの誘客増加
 - 関連産業の振興
 - 雇用の場の確保

→地域経済の活性化



オーベルジュについて

おいしい料理をゆっくり堪能できる 宿泊施設付きのレストラン

- ・ フランス発祥
- ・ 都市部ではなく、郊外であることが多い
- ・ フランスを中心にベルギー、オランダ、ドイツなどで、数多くのオーベルジュが見られる
- ・ 日本では1970年代以降、全国の観光地やリゾート地、別荘地などにオープン、
現在、日本独自の旅文化とも融合し、日本料理や世界各地の料理を提供する多彩なスタイルで登場



国内の先進事例

オーベルジュ土佐山（高知県高知市郊外）



オーベルジュ雲南（島根県雲南市）



ぐるっとオーベルジュの推進スケジュール

平成27年度

県事業 全体構想の策定

食と農の接続によるオーベルジュの整備とネットワーク化の全体構想

平成28年度

町村事業 整備基本計画の策定

- 南部東部地域5町村において、町村が整備基本計画を策定
 - ・宇陀郡普爾村（村観光地に新設）
 - ・宇陀郡御杖村（県営みつえ高原牧場内に新設）
 - ・吉野郡大淀町（集落内古民家を改修）
 - ・吉野郡天川村（村温泉地がある洞川地区に新設）
 - ・吉野郡野迫川村（高野龍神スカイライン沿いの村営施設を改修）
- 対象町村が行う整備基本計画策定に対し県が補助

平成29～
30年度

町村事業 敷地調査、実施設計、整備工事

- 対象町村が行う上記事業に対し県が補助

平成31年度～

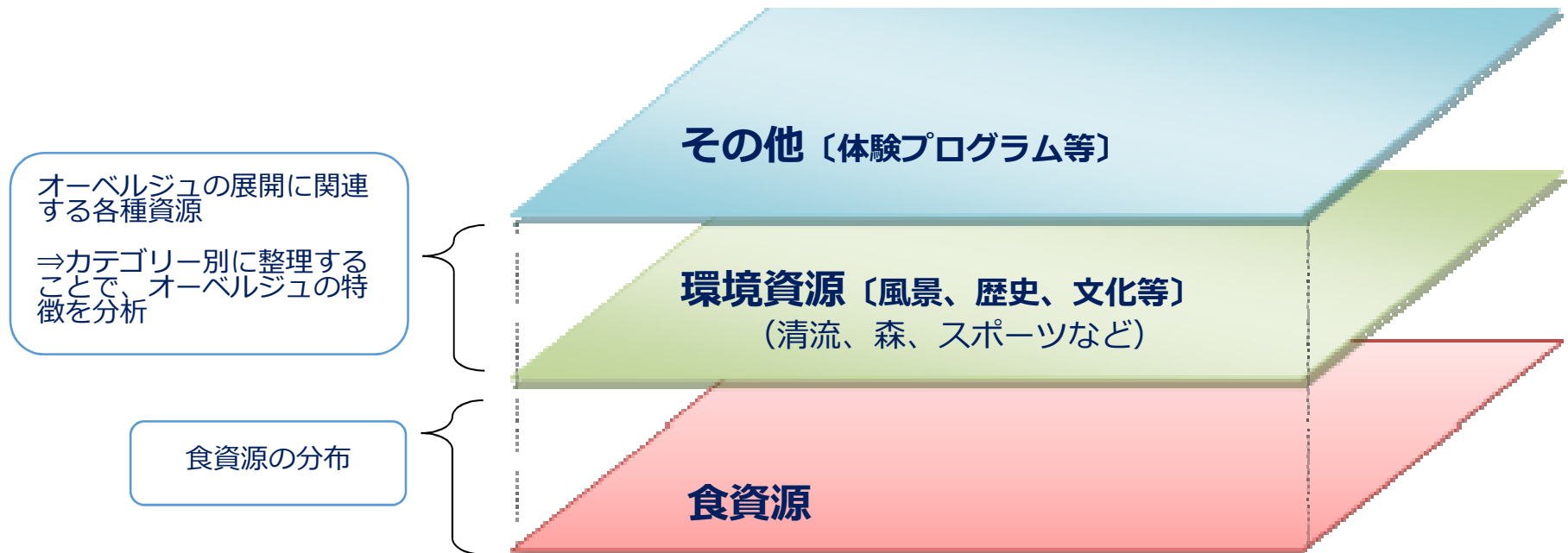
■オーベルジュ運営開始（公設民営）

ぐるっとオーベルジュを推進するためのポイント

カテゴリー別マップによる課題整理のイメージ

- ・地域の有効な資源を整理したマップは、食+αの魅力を検討するうえで有効な資料となる
- ・特に食資源情報には、食材の地域ごとの違い、生産者、郷土料理での食べ方などより詳しい情報を盛り込むことで、料理人の新しい発想を誘発する可能性がある

「地域の農と食を活かしたぐるっとオーベルジュ推進・全体構想」
(平成27年度・奈良県農林部策定) より引用



地域資源マップ作成による情報整理例

地域資源の有効活用

- 食（右図）
- 自然・歴史

「地域の農と食を活かしたぐるっとオーベルジュ推進・全体構想」（平成27年度・奈良県農林部策定）より引用



今後の方針

○運営方針（民営）の検討

- ・ 地域にふさわしいオーナーシェフ
- ・ N A F I C との連携
- ・ 利用する食材のさらなる発掘

○県の支援

- ・ 地域間連携を踏まえた一体的なPR
- ・ 次期に取り組みられる市町村の構想に対応

スライド中の写真および図は、

「地域の食と農を活かしたぐるっとオーベルジュ推進全体構想」

（平成28年3月奈良県農林部作成）より引用しています